

2 0 2 5 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 恭生会

基本理念

『私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。そして、利用者さまの人権を尊重し「地域の皆さまに信頼され、愛される施設」を目指します』

社会福祉法人 恭生会のミッション（社会的使命）

『恭生会サービス提供圏域に住む方々の福祉の向上に積極的に関わり、地域社会の幸福度を向上させます』

社会福祉法人の位置づけとして社会福祉法第24条1項に、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効率的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び透明性の確保を図らなければならない」とあります。

恭生会としても社会福祉法人の果たすべき役割を認識し、社会福祉事業を中心とした質の高い福祉サービスを提供するとともに、地域における多様化する福祉ニーズにきめ細かく対応し、地域社会に貢献していくことを目指します。

具体的には、以下の内容です。

1. 法人内連携強化、その後サービス提供圏域連携強化
 - ① 各施設の役割の明確化
 - ② 法人共通イベントの開催
2. 法人サービス提供圏域内の生活課題支援（ソーシャルワーク機能）強化
 - ① 生活課題抽出機能・支援機能の強化
 - ② 社会貢献事業拠出金の拠出先の見直し
3. 地域拠点施設（事業所）化の推進
 - ① 各職種スキルの向上
 - ② 相談先としての想起順位の向上
 - ③ 地域に信頼される施設づくり
 - ④ 地域の中での同業他社とは違う先駆的な取り組みの推進
4. 感染症・災害への体力強化
 - ① 感染症対策の強化
 - ② 業務継続に向けた取り組み（BCP 策定）と強化

I 概 要

<2025年度取り組み評価>

全体報告

コロナ禍が過ぎ日常を過ごしていく中で、核家族化や単身世帯の急増、さらには価値観の多様化といった社会構造の急激な変化が、ご利用者様を取り巻く環境が大きく変化していることを、痛感する1年でした。

数年前まではご家族が担われていた日々のサポートや、重大な局面での意思決定の代弁者が不在となるケースが急増しています。頼れる身寄りがおられない方々を前に、私たち「社会福祉法人」はどのような倫理観を持ち、どう寄り添うべきなのか。その根源的な使命と存在意義を、深く問い直される1年でもありました。

「相互扶助」や「家族間の助け合い」といったインフォーマルな支援機能の空洞化は、今や看過できないレベルで進行しています。単なる経済的な困窮にとどまらず、「社会的孤立」を背景として複雑化・多様化しており、画一的な公的福祉サービスの枠組みだけでは、対応できなくなっています。私たちは、「サービスとサービスの隙間」を埋め、東和会グループとして医療と介護の連携を展開し地域社会に新たなセーフティネットを再構築していくことが必要と考えます。

中長期事業計画で定めている、私たち和朗園の社会的使命「地域社会の福祉を向上し、その信頼をもって競争力を高め、総合介護福祉施設 和朗園の価値を高める」ということを念頭に下記の取り組みを行いました。

- ①社会福祉法人の本旨を忘れず、社会に対し貢献していくこと。
- ②たとえ重度な要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような支援体制を構築する。
- ③在宅での生活維持が困難な方に対し、施設入所により、質の高い入所生活を提供する。
- ④法人としての競争力を向上させ、税金が投入されている施設資源を適正に維持する。
- ⑤経営組織のガバナンスを強化し、事業運営の透明性を向上させる。

今年度も和朗園の社会的使命達成のために次の具体的目標に取り組みました。

<目標>

1. 連携のとれた複合的サービスの提供

グループ内外の事業所との連携や地域資源活用に取り組み、医療ニーズをはじめとする様々なニーズに対する対応力の向上を目指し、多職種によるチームケアに取り組んでいきます。

→ 医療介護連携会議を開催し毎月開催し新規入所や入院中の利用者の情報を第一

東和会病院と共有し意見を交換しました。また、昨年導入したケアプランデータ連携システムの活用を進め連携力の向上に取り組んでいます。

2. 困難ケース(複合的課題ケース)の対応力強化及び人材育成

複合的課題(貧困・介護・障がい・児童など、複合的な課題のある事例)の対応力を強化するために、グループ内OJT・OFF-JT環境整備やフォロー体制を構築し、特定の分野に関する専門性のみならず福祉全般に一定の知見を有する人材の育成を目指します。

→ 2025年度は市の要請で措置入所の対応を行ったほか、虐待事案等で住まいを追われた方複数名について、和朗園で関係機関と調整を行いながらシェルター利用をおこないました。業務の中でも虐待、貧困などの場面にどう向き合っていくべきか、職種を跨いで意見を交わし、連携を深めました。

3. 担い手としての福祉教育の発信

社会福祉士・介護福祉士・教員等の実習生の受入を積極的に行い、これからの福祉の担い手として福祉・教育の人材育成に取り組めます。

→ グループ内異動により社会福祉士の実習生は受けることができませんでしたが、柔道整復師、鍼灸師、保健師、介護職員などの専門職をはじめ、五領小学校、五領中学校の生徒の実習・体験の受け入れを積極的行いました。

4. 認知症ケアチームの地域活動・高度認知症ケア

認知症介護指導者や実践リーダー・実践者とともに、最新の認知症ケア援助技術等を活用し認知症ケアの質の向上及び、高度認知症ケア教育体制整備に取り組めます。そしてその実践のノウハウ等について、地域へ還元していきます。

→ 実践者研修、実践リーダー研修に参加を促し、認知症ケアの質の向上に努めた。高槻市介護事業者協議会の事例発表会において、「商業施設でのファッションショーの開催」をテーマに発表を行いました。

5. 予算管理の徹底

人件費高騰に対し、職員定数管理を行い適正人件費率を目指します。また、各事業所の新規利用者獲得にも努め昨年度以上の稼働率を目指します。

→ 毎月、職員定数管理を行い適正な人員配置に努めました。

6. 広報活動の強化

質の高い職員を確保していくためにワークライフバランスの充実に取り組めます。

また、SNSを活用した広報等の活動を通して、和朗園の魅力を発信し、知名度向上及び、人材確保を目指します。

→ 和朗園全体で生産性向上の取り組みを進め、業務のスリム化を目指し2024年度と比較して約1000時間の残業を削減しました。5月に高槻イオンにて「和朗園春の福祉フェスタ」を行い外部絵のアピールを行いました。また、北摂地域の中학생のためのお仕事ブッ

クへの掲載をはじめ、Instagramやホームページにて和朗園の取り組みの発信を行いました。

Ⅱ 利用者状況

1. 介護度別状況

特別養護老人ホーム（延べ人数）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度 合計	2024 年度 合計	差異
4 月	0	60	757	1196	867	2880	2864	16
5 月	0	62	846	1230	880	3018	2879	139
6 月	0	60	783	1233	840	2916	2737	179
7 月	0	62	807	1234	868	2971	2875	96
8 月	0	62	744	1264	874	2944	2936	8
9 月	0	90	683	1266	841	2880	2835	45
10 月	0	93	749	1285	838	2965	2879	86
11 月	0	90	782	1269	800	2941	2797	144
12 月	0	93	781	1303	840	3017	3026	-9
1 月	0	69	712	1382	793	2956	2972	-16
2 月	0	53	644	1238	681	2616	2726	-110
3 月	0	62	673	1389	810	2934	3035	-101
合計	0	856	8961	15289	9932	35038	34561	477

昨年対比 101.3 % 平均介護度 4.1

ターミナル期の取り組みについて

特養は、終身的施設であるということから、「ひとりひとりにあったケア」への取り組みが早期に出来るように、入所時に「心身の情報」の聞き取りを実施しており、介護職員と情報を共有し、早期の個別ケアが出来てきていると感じています。

また、看取り期に入った利用者のケア計画策定のため、医師の見解を基に家族との話し合いの場を設け、各職種からの立案により介護計画を作成し、他職種と連携しながらケアを行っています。看取りの勉強会も行い、他職種と価値観の共有に努めてきました。今後も各関連機関、家族と連携を図りながら実施していきます。

特養3F

1. 利用者様の尊厳を守り、心身共に快適に過ごして頂けるようにケアを行います。

⇒内部研修と外部研修で得た知識を、フロアミーティングで話し合い、尊厳を支える個別ケアができるように取り組んでいます。

2. 「です・ます」を基本とし、語調が優しい声掛けを行います。

⇒フロアミーティングや内部研修で意識を向上させて、職員同士でも短時間の声掛けを行う事で、意識づけを行っています。

3. 勉強会を開催して、職員のスキルアップに取り組めます。

⇒内部研修や外部研修で学び、フロアミーティングで意見交換を行い、一人一人が考えることで意識の向上を図っています。今後もスキルアップできるように、継続して取り組んで行きます。

特養2F

1. 丁寧な言葉遣いと語調に気を付けて、利用者様の想いに寄り添います。

⇒フロアミーティングや内部研修で意識を向上させて、職員同士でも短時間の声掛けを行う事で、意識づけを行っています。

2. 環境整備に力を入れて、利用者様が気持ちよく過ごせる環境を整えます。

⇒感染対策に気を付けて、居室内や共有スペースの環境整備に努め、利用者様に過ごしやすい環境作りに努めました。

3. 勉強会を開催して、職員のスキルアップに取り組めます。

⇒内部研修や外部研修で学び、フロアミーティングで意見交換を行い、一人一人が考えることで意識の向上を図っています。今後もスキルアップできるように、継続して取り組んで行きます。

ショートステイ (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度 合計	2024 年度 合計	差異
4 月	0	9	18	34	105	62	5	233	238	-5
5 月	0	2	35	25	117	73	3	255	255	0
6 月	1	3	20	19	98	66	1	208	239	-31
7 月	3	1	15	31	110	47	1	208	223	-15
8 月	0	8	41	27	108	50	4	238	216	22
9 月	0	5	42	32	102	26	6	213	235	-22
10 月	4	7	25	33	104	29	4	206	260	-54
11 月	0	2	32	32	89	30	1	186	259	-73
12 月	0	0	45	34	107	25	11	222	264	-42
1 月	0	5	35	47	99	54	2	242	246	-4
2 月	0	6	30	48	84	31	1	200	223	-23
3 月	1	5	36	40	87	38	12	219	259	-40
合計	9	53	374	402	1210	531	51	2630	2917	-287

昨年対比 90.3% 平均介護度 2.5

デイサービス (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度 合計	2024 年 度合計	差異
4 月	111	236	561	185	253	64	51	1461	1499	-38
5 月	107	267	550	179	280	68	64	1515	1523	-7
6 月	94	249	534	182	275	79	51	1464	1461	3
7 月	102	270	576	196	254	105	49	1552	1561	-9
8 月	98	240	562	181	242	92	49	1464	1542	-78
9 月	88	249	545	239	252	107	52	1532	1444	88
10 月	98	254	479	304	256	113	55	1559	1587	-28
11 月	90	237	471	269	228	107	44	1446	1482	-36
12 月	89	292	513	302	260	90	53	1599	1544	55
1 月	79	272	441	231	210	82	52	1367	1355	12
2 月	88	264	427	274	257	61	57	1428	1336	92
3 月	98	290	447	318	284	88	61	1586	1488	98
合計	1142	3120	6106	2860	3051	1056	638	17973	17822	151

昨年対比 100.84% 平均介護度 1.7（要支援含む）

大きな感染症拡大もなく、イベントや行事等の活動も再開してコロナ禍以前の状態に戻りつつあります。それに伴い新規利用者数も増えているも、既存の利用者の高齢化が進み介護度増加による施設入所や病状悪化による入院等により利用率は去年と同じ横ばいとなっています。利用率向上のため、新規利用者獲得増加を目指し短時間利用の目的のための取り組みや認知症ケア、小集団で出来るレクリエーションリハビリ等の差別化を図る取り組みの実施をして行きます。

グループホーム（延べ人数）

	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度 合計	2024 年度 合計	差異
4 月	0	240	180	60	60	0	540	479	61
5 月	0	248	186	52	54	0	540	527	13
6 月	0	209	210	60	60	0	539	506	33
7 月	0	217	217	62	62	0	558	544	14
8 月	0	217	217	62	54	0	550	550	0
9 月	0	220	210	60	30	0	520	526	-6
10 月	0	208	209	62	13	0	492	545	-53
11 月	0	229	185	50	0	0	464	487	-23

12 月	0	248	230	62	0	0	540	531	9
1 月	0	248	248	62	0	0	558	558	0
2 月	0	224	217	36	0	0	477	504	-27
3 月	0	248	279	31	0	0	558	555	3
合計	0	2756	2588	659	333	0	6336	6312	24

昨年対比 100.3%(利用延べ人数) 平均介護度 1.8(昨年度 2.2)

利用者は家庭的な雰囲気の中、認知症ケアの取り組みを行う事により、おだやかに過ごされています。2025 年度は、業務効率化とサービス質の向上を両立させるため、課題解決を目的に生産性向上活動に着手しました。

ケアプランセンター (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度 合計	2024 年 度合計	差異
4 月	6	8	56	40	25	12	11	158	137	21
5 月	7	7	53	42	28	9	7	153	137	16
6 月	5	6	56	44	26	8	11	156	136	20
7 月	4	11	53	42	25	8	7	150	131	19
8 月	4	10	53	38	23	6	7	141	134	7
9 月	4	12	53	40	21	9	10	149	130	19
10 月	4	12	52	40	19	6	8	141	158	-17
11 月	4	12	53	38	19	6	9	141	168	-27
12 月	4	12	63	38	18	5	12	152	158	-6
1 月	5	11	60	35	17	4	8	140	151	-11
2 月	5	13	55	36	15	6	9	139	142	-3
3 月	6	16	51	36	14	9	11	143	142	1
合計	58	130	658	469	250	88	110	1763	1724	39

昨年対比 要支援率 10.7% (-0.4%) 要介護率 89.3% (+0.5%)

2025 年度の取扱件数は 1,763 件と前年度比 39 件増となり、実務経験者のケアマネジャー1 名を補充した体制強化のもと、年間を通じて安定した運営を維持しました。

要支援は 10.7%(前年度比▲0.4%)、要介護は 89.3%(+0.5%)と、要介護の割合がやや増加した。年間担当終了ケースは 71 件と例年並みであり、一定の入退所バランスを保ちながら安定した支援提供が図れました。

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数		
	2025 年度	2024 年度	差異

4 月	961	1137	-176
5 月	1074	1265	-191
6 月	929	1105	-176
7 月	1120	1165	-45
8 月	1036	1200	-164
9 月	1040	985	-55
10 月	1010	1083	-73
11 月	889	970	-81
12 月	967	904	63
1 月	933	854	79
2 月	897	865	29
3 月	981	967	14
合計	11837	12500	-663

昨年対比 94.6%

加齢や体調不良で仕事量を抑える登録ヘルパーが増え、マンパワーが減少し、訪問件数が減少しています。

ケアハウス（延べ人数）

	延べ人数		
	2024 年度	2025 年度	差異
4 月	884	900	16
5 月	930	930	0
6 月	867	900	33
7 月	930	918	-12
8 月	912	930	18
9 月	874	900	26
10 月	920	916	-4
11 月	871	889	18
12 月	930	930	0
1 月	930	901	-29
2 月	840	808	-32
3 月	918	896	-22
合計	10806	10818	12

昨年対比 100.1%

職員と入居者で生活支援計画を立案し、一人ひとりが年間を通じて達成できるようサポートさせていただきました。また、ケアハウスでの生活を少しでも長く継続していただけるよう、日常のレクリエーションや健康体操などへの参加を促して参りました。

さらに入居者の高齢化が進んできている状況ですので、移動販売車やお薬の管理などのサービスを活用する方が増加しました。

2. 機能訓練延べ人数・加算状況

特別養護老人ホーム

	2025 年度			
	個別訓練	機能訓練加算	科学的推進	経口維持
4 月	294	2874	101	44
5 月	299	2995	101	45
6 月	327	2916	100	43
7 月	294	2942	100	41
8 月	269	2852	99	40
9 月	287	2821	98	42
10 月	352	2927	102	42
11 月	377	2912	101	46
12 月	317	3017	101	46
1 月	233	2963	107	51
2 月	335	2591	103	46
3 月	318	2935	99	39
合計	3702	34745	1212	525
前年度合計	3502	34416	1198	593
差異	200	329	14	-68

短期入所生活介護

	2025 年度	
	機能訓練体制 加算	個別機能訓練 加算
4 月	268	55
5 月	315	81
6 月	277	72

7 月	260	59
8 月	308	71
9 月	282	54
10 月	274	66
11 月	239	67
12 月	224	42
1 月	279	53
2 月	246	73
3 月	274	84
合計	3246	777
前年度合計	3650	726
差異	-404	51

通所介護

	2025 年度				
	個別訓練	集団訓練	個別機能訓練 加算Ⅰイロ	個別機能訓練 加算Ⅱ	科学的推進加算
4 月	238	861	1092	122	186
5 月	306	824	1117	126	189
6 月	207	901	1084	125	185
7 月	237	929	1164	125	185
8 月	287	804	1073	122	185
9 月	251	929	1182	131	189
10 月	259	938	1183	130	187
11 月	263	834	1093	130	187
12 月	223	987	1191	129	192
1 月	200	804	1004	131	191
2 月	285	771	1010	127	191
3 月	247	936	1176	132	198
合計	3003	10518	13369	1530	2265
前年度合計	3300	10436	13565	1569	2226

差異	-297	82	-196	-39	39
----	------	----	------	-----	----

生活機能連携向上加算

	2025 年度			
	特養	ショート	デイサービス	グループホーム
4 月	101	16	185	18
5 月	101	22	188	18
6 月	100	23	184	18
7 月	100	17	183	18
8 月	99	27	183	18
9 月	98	20	188	18
10 月	102	23	186	18
11 月	101	26	186	18
12 月	101	20	191	18
1 月	107	25	192	18
2 月	103	28	191	18
3 月	99	25	198	19
合計	1212	272	2255	217
前年度合計	1198	198	2226	217
差異	14	74	29	0

3. 入所者（特別養護老人ホーム）の身体状況（2026. 3. 31 現在実数）

区分			実数	区分				実数
移動	自立	自立歩行	6	排泄	昼間	便所	自力で可能	5
		杖等の歩行補助 具使用	7				一部介助	38
	一部介助		20				全部介助	9
	全部介助		67			ポータブル 便器	自力で可能	0
食事	自己で可能		46		一部介助		0	
	一部介助		16		全部介助		0	
	全部介助（胃ろう）		38		おむつ使用		48	
入浴	自己で可能		0		夜間	便所	自力で可能	3

着脱衣	一部介助	26
	全部介助	74
	自己で可能	10
	一部介助	24
	全部介助	66
褥創者数		2
看取り		2
認知度	重度	64
	中度	21
	軽度	15

	ポータブル便器	一部介助	4
		全部介助	0
		自力で可能	0
		一部介助	3
	全部介助	0	
	おむつ使用		90
トイレ誘導実施者数			47

Ⅲ 会議・部会組織

	会議名	開催日		参加職種
所 属 長	所属長運営会議	第 3 木曜日		各事業所より主任以上職員
	衛生委員会	第 2 月曜日		産業医、衛生管理者、事業統括者、 職員代表
	教育委員会	内部研修	奇数月 第 1 木	各事業所委員
		外部研修		
		新人教育		
	リスクマネジメント 委員会	事故防止	第 1 木曜日	
		身体拘束廃止		
		虐待防止		
	行事委員会	行事	第 3 木曜日	
	サービス向上委員会	接遇	偶数月 第 1 木	
利用者サービス				
職員サービス				

	感染対策委員会	感染対策	奇数月 第 1 木 (+随時)	
	広報委員会	広報誌 ホームページ	臨時開催	
	栄養委員会	栄養	偶数月 第 1 木	
	夕礼	第 1 木曜日		出勤している全職員
	褥瘡対策チーム	第 2 水曜日		師長・看護職員・機能訓練主任・介護支援専門員・管理栄養士・介護職員
	認知症ケアチーム	第 4 水曜日		施設長・次長・認知症介護指導者・認知症介護リーダー研修修了者・認知症介護実践者研修修了者・ 各職種
特 養	特養運営会議	第 4 水曜日		施設長、師長、介護士長、介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員(入所・ショート)、生活相談員
	入所選考委員会	第 4 月曜日		施設長、医師、師長、介護士長、生活相談員、介護主任、機能訓練指導員、介護支援専門員
	特養実務者会議	第 1 水曜日		介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員、看護リーダー、介護リーダー、管理栄養士、生活相談員
	特養フロア カンファレンス	第 2 木曜日(特養 3 階) 当月の前半(特養 2 階)		介護主任・介護副主任・介護職員
	特養ケアカンファレンス	第 1・3 火 (2F) 第 2・4 火 (3F)		介護支援専門員、介護士長、介護主任、機能訓練主任、機能訓練士、生活相談員、管理栄養士、看護職員、介護職員
	喀痰吸引等実施の為の 安全対策委員会	第 2 金曜日		施設長、医師、課長、師長、介護士長、介護主任、看護職員
D S	デイサービス運営会議	第 3 木曜日		管理者、機能訓練主任、 生活相談員、介護主任、介護副主任
	デイサービス実務者会議	第 1 金曜日		管理者、生活相談員 介護主任、介護副主任、介護職員
	デイサービス フロアカンファレンス	第 2 木曜日		管理者、生活相談員、看護職員、介護主任、 介護副主任、介護職員
G H	グループホーム カンファレンス	不定期月一回		管理者、計画作成者、介護副主任、介護職員
	グループホーム ケアカンファレンス	第 3or 第 4 水曜日		管理者、師長、計画作成者、介護副主任、 介護職員

H S	ヘルパーステーション 運営会議	第 4 金曜日	管理者、師長、提供責任者
	ヘルパーステーション カンファレンス	第 2 火曜日 第 3 火曜日	管理者、師長、提供責任者、介護職員、 登録ヘルパー
C H	ケアハウス カンファレンス	第 2 金曜日	管理者、師長、生活相談員、介護職員、
C P C	ケアプランセンター カンファレンス	第 3 金曜日	所長、介護支援専門員、施設長
	利用者に関する情報又は サービス提供にあたって の留意事項に係る伝達項 目を目的とした会議	毎週月曜日	所長、介護支援専門員
	生活相談員会議	第 2 金曜日	施設長、生活相談員、ホーム長、センター長
	看護カンファレンス	随時	師長、看護職員
	機能訓練カンファレンス	適宜 水曜日	機能訓練主任 機能訓練
	言語療法会議	第 2 木曜日	医師、歯科医師、歯科衛生士、機能訓練主任、 管理栄養士、看護職員、介護職員、介護支援 専門員、言語聴覚士
	音楽療法会議	適宜	医師、師長、機能訓練主任、デイ相談員、ホ ーム長、介護士長、特養相談員、介護主任、 音楽療法士、介護支援専門員

IV 委員会報告

1. 衛生委員会

職員の健康保持増進に関する重要事項について年間計画を立て、毎月の委員会で審議し課題に対する取り組みを実施することで、労働衛生の向上を図ってきました。

具体的には、定期的な職場巡視と過重労働の予防、メンタルヘルスの推進（ストレスチェックの実施、教育研修、常設相談室の開設、等）、健康診断結果等について審議し、研修や各職員への対応を実施しました。

2025 年度から開始した取り組みとしては、職場環境における熱中症予防対策について、全職員への予防の啓発に加え関係部署の担当者を決め、夏季の業務上での熱中症予防への取り組みを強化しました。

2. 教育委員会

内部研修を集合研修で開催できることが増えて来ました。資料回覧とウェビナー(動画視聴)も活用して、実施できる選択肢が増えている事で、様々な状況に対応する事が出来ています。外部研修は集合研修も実施される事が増えて来ており、積極的に参加を行い、それぞれの良さを活用して参加しています。新人教育制度では、プリセプター制度を実

践して、働きやすい環境を作り指導を行いました。特定技能 1 号の受け入れに対しても、言葉の違いや文化や生活習慣の違いに配慮して、いきいきと活躍できる職場作りに取り組みました。また、東和会グループの等級研修にも力を入れて、スキルアップに必要な知識を獲得できるように努めています。

【内部研修】

開催月	研修内容	講師	参加者の職種	開催方法	参加者
4 月	倫理・法令遵守・プライバシー	管理職以上の職員	管理者 看護職員 介護職員 事務職員 管理栄養士 機能訓練指導員 介護支援専門員 生活相談員	資料回覧	全部署
5 月	高齢者虐待防止	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	腰痛体操	機能訓練		集合研修	全部署
	手指衛生	感染対策委員		集合研修	全部署
6 月	食中毒	感染対策委員		資料回覧	全部署
	熱中症予防対策	衛生管理者		ウェビナー	全部署
7 月	身体拘束	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	フィルス	フィルス担当者		ウェビナー	全部署
	認知症ケア I	実践者研修修了者		ウェビナー	全部署
8 月	介護事故	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	接遇	サービス向上委員		集合研修	全部署
	看取り	看護師		資料回覧	全部署
	B C P (災害・感染)	施設長		資料回覧	全部署
10 月	インフルエンザ	感染対策委員		集合研修	全部署
	高齢者虐待	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署

	感染性胃腸炎	感染対策委員		資料回覧	全部署
11 月	人権	教育委員		ウェビナー	全部署
	メンタルヘルスケア	衛生管理者		ウェビナー	副主任 以上
	乳がんと乳がん検診 について	第一東和会病院放射線科 濱野副主任		集合研修	全部署
12 月	褥瘡	褥瘡チーム		資料回覧	全部署
1 月	車両事故	リスクマネジメント委員		ウェビナー	全部署
	認知症ケアⅡ	認知症ケアリーダー 研修修了者		ウェビナー	全部署
2 月	身体拘束	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
3 月	介護事故	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	ハラスメント	次長		資料回覧	全部署
	防災	防災責任者		資料回覧	全部署
	メンタルヘルス (全職員)	衛生管理者		集合研修	全部署

【外部研修】

月日	研修名	主催	参加者
5/27	認知症ケアナイトセミナー	和朗園	吉田 拓馬
6/3～ 7/4	放課後児童支援員認定資格研修	NPO 法人関西こども文化協会	田中 有美子
6/5	仕事のモチベーションを高める ～大谷翔平に学ぶ成功メソッド～	大阪府社会福祉協議会	山田 晃平
6/13	サービス管理責任者等基礎研修	東北福祉カレッジ	杉山 耕平
6/13～ 7/11	CSW 養成研修	大阪府社会福祉協議会	山田 晃平
6/13～ 7/11	CSW 養成研修	大阪府社会福祉協議会	池田 聡

6/15	ムセ・誤嚥を防ぐ食事介助や 口腔ケアについて学ぼう	特定非営利法人介護保険市民 オンブズマン機構大阪	伊佐 泰典
7/31	改めてパーソン・センタード・ケ アを考える	特定非営利法人介護保険市民 オンブズマン機構大阪	坂根 悠斗
7/31	改めてパーソン・センタード・ケ アを考える	特定非営利法人介護保険市民 オンブズマン機構大阪	吉田 拓馬
7/31	改めてパーソン・センタード・ケ アを考える	特定非営利法人介護保険市民 オンブズマン機構大阪	溝口 賢吾
8/8	リスクマネジメント研修	特定非営利法人介護保険市民 オンブズマン機構大阪	坂根 悠斗
8/4	介護福祉士実習指導者講習会	学校法人田島学園	石原 あゆみ
8/26	認知症介護基礎研修	コリオン	松本 洋美
9/9	排泄ケアの基本と用具の理解	大阪府社会福祉協議会	伊佐 泰典
9/1～ 11/4	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	浪越 マユリ
10/31	リスクマネジメントに関する研修会	大阪府社会福祉協議会	山田 晃平
11/6～ 1/22	認知症介護実践者研修	大阪府社会福祉協議会	小嶋 京子
11/7	人権感覚を豊かにする研修 アンコンシャスバイアス	大阪府社会福祉協議会	伊佐 泰典
11/27	甲乙同時防火管理者講習	大阪府消防防災協会	中谷 翔太
12/9	認知症介護実践リーダー研修	社会福祉法人聖徳会	中島 貴子
1/7～ 3/9	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	松久保 さやか
1/7～ 3/9	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	中西 誠治
1/23	社会福祉法人会計セミナー	公益法人協会	野倉 健
2/3	安全運転管理講習会	大阪公安委員会	中谷 翔太
2/3	認知症介護基礎研修	コリオン	宮 大
2/14	近畿ブロック研究大会 in 奈良	日本介護支援専門員協会	中村 久義
2/14	近畿ブロック研究大会 in 奈良	日本介護支援専門員協会	加藤 幸治
2/14	近畿ブロック研究大会 in 奈良	日本介護支援専門員協会	福井 梨恵

3. リスクマネジメント委員会

【事故防止】

2025 年度の 1 号事故報告件数は、以下の通りです。事故発生を防止するために、原因を究明し対策を実施しています。また、全職員に対し、対策について周知徹底をすると共に勉強会等も開催しています。

	1 号事故発生数
--	----------

	重大事故発生数					
	2025 年度	2024 年度	差異	2025 年度	2024 年度	差異
特別養護老人ホーム	34	43	-9	9	11	-2
ショートステイ	10	13	-3	1	4	-3
デイサービス	2	8	-6	0	0	0
グループホーム	14	13	1	4	2	2
ヘルパーステーション	0	8	-8	0	0	0
ケアハウス	3	8	-5	0	3	-3
合計	63	93	-30	14	20	-6

【身体拘束廃止】

身体拘束廃止に向けての検討や、研修会等を通じて職員への周知を図っています。介護する側が何気なく使っている言葉や声掛けによってご利用者の言動が抑制されてしまう事がないよう周知し、日常的なご利用者の精神的苦痛を軽減するよう対策を検討しています。

【虐待防止】

従業者の虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施（研修方法や研修計画）を定期的に行い、研修を通じて、従業者の人権意識の向上や知識や技術の向上に努めました。

4. 行事委員会

月日	行事名	内容
3月下旬～4月上旬	観桜会	近隣に出向き桜を楽しみました。
7月上旬	七夕	短冊に願いを込めて笹に飾り付けました。
7月中旬	納涼祭	地域、家族様の参加はなく、全部署中庭にて出店や踊りを披露し実施しました。
9月中旬	敬老会	全部署が集まり各対象者のお祝いを家族様と行いました。
12月中旬	ゆず湯	ゆず湯を堪能しました。
12月中旬	餅つき会	芥川高校和太鼓部の演奏とコラボレーションし餅つき大会を実施しました。
2月上旬	節分	各部署で実施しました。

今年度は感染症対策として、対策内容を一部変更し実施したイベントもありました。入所者様の生活の質の向上と、季節あふれる豊かな日常を提供する事を目的にイベントを企画・実施してまいりました。

5. サービス向上委員会

【接遇係】

表面上のマナーのみでなく、ご利用者・ご家族が「心あたたまる」接遇がおこなえるよう介護職員向け、事務職員向け等の研修を対面で行い、職員同士では、お互いを褒め合える土壌作りにも取り組みました。

また、身だしなみは家庭的な暮らしの場としての雰囲気づくりに努めました。

【利用者サービス係】

<家族会>

特養が主催する家族会のサポート役として、参加予定でしたが、今年度も見送りとなりました。

開催予定日		予定内容	家族参加数
5/未定	特養家族会	未開催	中止
11/未定	特養家族会	未開催	中止

<苦情処理>

ご利用者・ご家族等からの苦情申し出の方法として、各フロアに「意見箱」を設置しております。意見箱の意見は、各事業担当者より回答を得て、それらの意見をサービス向上委員会で集約しております。

なお、利用者等からの意見の回答に関しては掲示板に掲示しております。

苦情に関しては、苦情受付窓口担当者が苦情の詳細について本人等から聞き取りをおこない、改善・解決に向けて取り組んでおります。苦情内容に関しては、苦情解決責任者、サービス向上委員会に報告し改善・解決策の妥当性について検討しております。

サービス向上委員会での苦情の改善・解決に関する審議の結果、必要時には所属長会議に報告し施設全体的に検討しています。

これら内部窓口の他にも、第三者委員、公的機関窓口の説明もしております。

対応した苦情内容は下記、第三者委員にも報告しています。

<2025 年度苦情件数>

1.	特別養護老人ホーム	1 件
2.	ショートステイ	0 件
3.	デイサービスセンター	2 件
4.	ヘルパーステーション	1 件
5.	グループホーム	1 件
6.	ケアハウス	0 件
7.	ケアプランセンター	0 件
8.	地域包括支援センター	0 件
9.	和っはっは	1 件
	<u>合計</u>	<u>6 件</u>

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
特別養護老人ホーム和朗園	山田 晃平	長谷川 健二
ショートステイ和朗園	池田 聡	長谷川 健二
デイサービスセンター和朗園	足立 貴志	長谷川 健二
グループホーム和朗園	足立 このみ	中谷 翔太
ヘルパーステーション和朗園	山田 志津子	長谷川 健二
ケアプランセンター和朗園	介護支援専門員	古川 幸代
ケアハウス佑和	尾田 榛美	中谷 翔太
地域包括支援センター	橋本 禄子	椿 和美

外部第三者委員として、次のように定めています。

第三者委員		
・ 住民代表	佐々木 進次郎	
・ 第二東和会病院 名誉院長	榑 原 茂 樹	(TEL 072-674-1008)
・ 住民代表	佐々木 映 吾	

【職員サービス係】

今年度は「職員満足度調査」の実施なし。

6. 感染対策委員会

2025 年 12 月に当施設における 7 回目のクラスターが特養 3 階（利用者 15 名）グループホーム（入居者 1 名）で発生しました。重症化される方もなく発生から 15 日程度でフロアの隔離解除も出来ました。最短で隔離解除に繋がれたと考え、フロアスタッフの感染に対する意識・対応能力の向上を感じています。

インフルエンザも、2026 年 1 月～3 月にかけて大流行しましたが、施設内では単発的発生のみに終わり安堵した次第です。今後も危機感を持って感染対策に望みたいと考えております。そして利用者・家族に安心できる生活環境を提供していきます。

	活動	備考
4 月	施設内ラウンド	管理日誌変更
5 月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 定例会議 寝具交換・衣替え 体調チェック	

6 月	水質検査 勉強会：食中毒予防 施設内ラウンド 体調チェック	食中毒予防 配管洗浄（デイ）
7 月	定例会議 体調チェック	冷房使用中の衣類調節 空調や換気の発信
8 月	施設内ラウンド 体調チェック	熱中症・脱水症予防
9 月	定例会議 感染マニュアル改訂・確認 水質検査 体調チェック	Vセット備品点検と補充 配管洗浄（CH）
10 月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 勉強会：インフルエンザ感染症・胃腸 炎の予防 体調チェック	感染症発生情報・関連ポスター掲示 インフルエンザ・ノロウィルスの予防対策 各部署へ感染予防の徹底を指示する Vセットトレーニング
11 月	定例会議 感染症対策・体調チェック 感染マニュアル承認 寝具交換	温度・湿度（霧吹き）管理を各部署へ発信 暖房中の衣類管理 Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 管理日誌変更
12 月	水質検査 感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング 感染症発生情報掲示 配管洗浄（デイ）
1 月	定例会議 感染症対策・体調チェック	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 手指消毒アルコール個人携帯開始
2 月	感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示
3 月	定例会議 感染症対策・体調チェック 水質検査	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（CH）

7. 広報委員会

【広報誌】

各部署（特養・DS・GH・CH）広報誌を発行いたしました。

特養：4・8・10・3月 DS：4・1月（8・10月は発行中止）

GH：5・8・10・1月 CH：作成していません。

各部署の対象となる読者に向け内容を検討し作成しました。

8. 栄養委員会

【給食】

ご利用者一人一人の食事から、食レクの企画まで「食の楽しみ」を演出する為、日々検討・改善を重ねています。

感染予防の観点から例年通りの食レクの実施は行わず、相談して可能な範囲での食レク提供としています。

【栄養】

食器の購入、メニューや食材の評価、アンケート結果の検討など、運営に関する課題について委託業者を交えて意見交換し、ご利用者のニーズにいち早く応えられるような柔軟な体制作りを行いました。

9. 褥瘡対策チーム

新入所のご利用者を中心に、ブレデン評価・チーム全員でフロアラウンドを行い、ポジショニング等の評価を行ない褥瘡予防に取り組みました。2025年度の発生人数は23名(前年比+4名)でしたが、延褥瘡治療件数は前年度より-2件であったことから、早期治癒に至った利用者が多かったと考えます。

今後も褥瘡予防に努めると共に、褥瘡発生時はマットレス・クッション・体交枕等の再評価を行ない、毎日の洗浄や薬剤塗布、週一回ラウンドを行い医師による評価・治療等早期治癒に努めて行きます。

今後もスタッフの褥瘡へのリスク感性の継続や報連相がタイムリーに行える環境の維持に努めて行きたいと考えております。

10. 認知症ケアチーム

認知症の人がより安心して暮らせる環境づくりを推進している施設として、昨年度より引き続き日本認知症ケア学会より「機関認定」として地域活動をして参りました。商業施設で開催している認知症カフェについても、地域の協力を借りて継続開催することができました。今後も認知症ケアの専門性の向上を図るとともに、国が掲げる「新しい認知症観」をもとに、地域に住む認知症高齢者の日常生活・社会生活及び家族支援を強化に努めます。

V 防災訓練

2025年度は、職員だけではなく特別養護老人ホーム和朗園、ケアハウス佑和、グループホーム和朗園で入所されている利用者様も訓練に参加していただけたことにより、より実践に近い形での実施が出来ました。

2026年度の訓練は、前年度と同様に利用者様も参加していただきつつ、避難までの一連の流れで行うだけでなく、有事に際して被害を最小限にとどめるための消火・避難訓練等によって技術の練磨を図ります。

防災避難訓練

日時	内容	参加人数
6/24	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	23名
10/21	地震想定避難訓練	30名
12/23	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡	23名

	訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	
3/10	水害避難訓練	30名（内2名利用者、児童1名）

防災管理委員会構成

（なお、防災管理委員会は、消防計画上の防火対策委員会を兼ねるものとする）

役名	補職名	氏名	担当業務
委員長	統括施設長	長谷川 健二	全般指揮（自衛消防隊長兼務）
副委員長	次長	中谷 翔太	委員長の補佐（自衛消防副隊長兼務）
委員	地域包括支援センター長	椿 和美	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	看護師長	東口すみ江	救護担当
委員	生活相談員	山田 晃平	避難誘導対策担当
委員	認知症対応型共同生活介護主任	浪越 マユリ	夜間対策担当
委員	介護老人福祉施設副主任	前田 伊織	災害リスク担当
委員	介護老人福祉施設士長	伊佐 泰典	職員教育担当
委員	機能訓練副主任	山田 守宏	消防設備・建築設備の点検担当
委員	地域包括支援センター副主任	橋本 禄子	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	居宅介護支援事業所所長	古川 幸代	地域連携担当
委員	管理栄養士	片岡 愛	備蓄担当

（ ）内消防計画上の防火対策委員会での兼務事項

火元責任者一覧

	担当エリア	補職名	氏名
防火管理者	施設全体管理	施設長	長谷川 健二
火元責任者	事務所	相談員	山田 晃平
火元責任者	包括支援センター	包括センター長	椿 和美
火元責任者	クリニック	看護師長	東口すみ江
火元責任者	デイサービス	副主任	足立 貴志
火元責任者	特別養護老人ホーム2階	副主任	前田 伊織
火元責任者	特別養護老人ホーム3階	士長	伊佐 泰典
火元責任者	グループホーム	主任	浪越 マユリ
火元責任者	ケアハウス	次長	中谷 翔太
火元責任者	5階会議室	生活相談員	尾田 捺美
火元責任者	厨房	(株)塩梅なにわ	片岡 愛

自衛消防組織編成表（地震防災応急組織）

	担当	内容
自衛消防隊隊長	長谷川 健二	全般指揮
自営消防隊副隊長	中谷 翔太	隊長の補佐
防災センター通報班	椿 和美	通報・地域連携連絡

安 全 確 保 班	事務職員	避難路の確保
救 護 班	看護職員	負傷者の応急手当等
設 備 班	機能訓練指導員	必要物品の用意・管理
通 報 班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	施設利用者等への通報
消 火 班	介護職員・サービス担当責任者	初期消火
避 難 誘 導 班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	避難誘導、救護
安 全 班	機能訓練指導員	防火戸の閉鎖等

VI 地域との交流

地域住民や関係団体と職員一人一人が交流の機会を持ったり関係を深めたりすることで、社会福祉法人として地域に向けて役立つ情報の発信やその役割を実践しました。

	イベント	主な内容
4 月	春の福祉フェスタ	イオン高槻店 1 階のスタジアムコートにて開催 協力団体によるダンス・演奏の披露やご利用者様によるファッションショー・合唱の披露
6 月	小学生の職業学習	五領小学校からの依頼 デイサービス職員が小学生から職業インタビューを受ける
8 月	高槻まつり	高槻まつりへ踊り連で参加
9 月	中学生の福祉体験	五領中学校からの依頼 中学生による施設内での福祉体験（5 名）
	五領ふるさと祭り	職員がソーラン節を披露
10 月	福祉のつどい	五領地区福祉委員会主催 職員が体操指導として参加
	街角ガーデンコンクール授賞式	高槻市都市緑化フェア 地域住民と共に取り組んだ花壇が最優秀賞を 2 年連続で受賞
	春日神社の祭り	職員がソーラン節を披露
11 月	安心声がけ運動	北大冠地区福祉員会と地域包括支援センター共同主催 行方不明者の搜索模擬訓練に参加
通年	上牧地区セーフティネット会議	地域包括支援センター主催 地域内での支援困難者や多世代にわたる要支援者のサポートについて地域団体と協議

VII 喀痰吸引研修事業

介護職員による医療連携の一環として、介護職員が利用者に対して行う喀痰吸引や経管栄養の手順を研修する事業を行っています。今年度は 6 名の受講者があり研修を行いました。筆記試験は 7 名実施し、5 名合格。年度内に実地研修も終了し認定資格を得ることが出来ました。

VIII 初任者研修事業

幅広く介護人材の裾野を広げ、多くの人材を育てていくことを目的に、職員初任者研修事業を今年度1回も開講しました。現在無資格で介護職員として働いている職員のキャリアアップやご自身の親への介護の為に受講理由は様々ですが、今年度も優秀な人材を送り出しました。

開講日 2025年10月10日～2025年12月19日

定員 10名

修了者 10名

IX 放課後ひろば和っはっは

季節に沿った催しも開催できるようになり、活動機会が増加しています。毎月の課外活動が好評で参加者が増えてきています。

また、2025年度より障がい児童の受け入れを行い、「障がい児受け入れ加算」の算定を開始しました。

- ・年間利用延べ人数 5,077人（昨年対比105.3%）
- ・開所日数 264日
- ・平均人数 19.2人／日

X 生計困難者に対する相談支援事業

2025年度2件の困窮相談をおこないました。

1件目、癌と診断され就労ができなくなり治療費を払えず滞納しているご家庭で、大阪府社協に申請し治療代の立替、引っ越し後、生活保護申請をした為支援終了となりました。

2件目は3人暮らしをしていたが夫の暴力があり妻と息子を施設で保護（シェルター利用）しました。2カ月ほど和朗園から就労を行い、本人の希望によりシェルター利用終了となりました。

XI 音楽療法

認知症予防・健康維持及び生きがい創りの場を提供しますが、感染症の影響で見合わせておりましたが、「ミュージックセラピー」でグループホーム個別対面対応を1週間に1日から開始しています。

【再開未定】＊感染状況・音楽療法職員の日程を調整しながら、適宜再開検討中
ミュージックセラピー（利用者数：個別 20分月金曜日開催）
ほん和かミュージックルーム（利用者数：各10名 ／ 金曜日に2回開催）

2025年度

	ほんとかミュージックルーム	デイ ミュージックセラピー	G・H ミュージックセラピー	特養ミュージックセラピー
4 月			12	
5 月			12	
6 月			14	
7 月			9	
8 月			8	
9 月			6	
10 月			11	
11 月			6	
12 月			12	
1 月			9	
2 月			6	
3 月			14	
合計			119	
前年度合計			94	
差異			25	

在宅複合型老人介護施設 天兆園

【在宅複合型老人介護施設 天兆園の部】

令和7年度総括

令和7年度は、7月から9月にかけて茨木市内で新型コロナウイルスの感染拡大があり、当園もご利用者が感染により自宅療養や入院等で利用率に大きな影響が出ております。ですが施設内での感染拡大はBCP（感染防止マニュアル）のとおりに対応する事で軽微な影響で収まり、事業を中止することなく継続することが出来ております。次年度もBCPに沿って動き、事業を止めることがないよう研修会や実技を実施して行きます。

I 目標

1. 感染症や災害への対応力を強化します。

法人内、拠点とも連携を図りながら、感染症対策の強化、業務継続に向けた取り組みの強化、災害への地域と連携した対応の強化に努めます。又、茨木市の介護事業所として、北部圏域内事業所の連携についても強化していきます。

⇒年2回の災害対策訓練や訓練実施後の机上訓練を行う事で、職員一人ひとりに災害時の役割や流れを意識付ける事が出来ました。又、災害時における患者等の避難受入施設として茨木市保健所と協定し、個別避難計画を立てシュミレーション訓練を地域の方と一緒にやる事も出来き、避難福祉施設と個別避難受入施設としての役割を地域の方に示すことが出来ました。感染症に関しては、7月から9月にかけて茨木市全体で新型コロナウイルスが流行し、休みや入院等になる利用者が増加しました。当園は日頃から標準予防策を実施してたことで施設内での感染拡大は軽微であった為、次年度も引き続き対策を実施していきます。

2. 地域包括ケアシステムの推進を行います。

認知症への対応力向上、看取りへの対応の充実、相談機能の強化を行いながら様々な課題を丸ごと受け止める相談支援のネットワーク整備に努めます。

⇒地域の方への情報提供や相談支援機能の場として認知症カフェを継続して実施する事が出来ました。又、北圏域地区保健福祉センタープロポーザルでは、地域包括支援センター天兆園が受託する事ができ、令和7年度から行政と協力しながら地域のご利用者様の支援を行うことが出来ました。

3. 介護人材の確保、指導育成力の向上、ICTの導入を行います。

現場職員研修が研修に参加しやすくなるよう、ICTを使用する研修や、サービスの質向上を図りつつ安心して働くことができる環境の整備に努めます。また、ICTの導入を推進し、業務の効率化・負担の軽減に努めます。又、経験を重ねた職員が下級職者に適切に指導できるよう、指導育成研修やマネジメントについての知識も定着させていきます。

⇒令和6年度までは感染症等の影響を考慮し、外部講師の研修会を控えておりましたが、令和7年度より内部研修や外部研修だけではなく、外部の講師を招き集合研修を実施する事が出来ました。

II 利用者状況

1. 介護度別状況

ショートステイ (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度合計	2024 年度合計	差異
4 月	0	0	149	203	168	131	78	729	781	-52
5 月	2	0	132	227	191	140	77	769	796	-27
6 月	0	0	128	220	187	155	59	749	769	-20
7 月	5	12	111	230	190	162	83	793	830	-37
8 月	6	2	116	200	163	141	68	706	822	-116
9 月	5	7	109	214	141	157	83	716	781	-65
10 月	3	16	110	254	159	152	90	784	828	-44
11 月	8	8	119	226	131	175	99	766	812	-46
12 月	2	10	110	243	163	173	94	795	807	-12
1 月	5	11	137	225	166	167	81	792	762	30
2 月	2	7	141	133	133	184	67	667	692	-25
3 月	9	4	127	185	157	250	69	801	740	61
合計	47	77	1489	2560	1949	1997	948	9067	9420	-353

平均介護度 2.8

昨年対比 96.3%

デイサービス (延べ人数)

	要支援 1 (事業対象者)	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2025 年度合計	2024 年度合計	差異
4 月	67	56	440	377	219	132	107	1398	1367	31
5 月	69	56	431	418	210	144	92	1420	1476	-56
6 月	77	47	400	401	182	135	89	1331	1344	-13
7 月	82	68	432	373	191	158	95	1399	1452	-53
8 月	64	65	381	324	156	150	83	1223	1439	-216
9 月	61	76	418	325	177	149	114	1320	1323	-3
10 月	60	86	427	349	184	158	128	1392	1435	-43
11 月	52	71	408	360	158	136	125	1310	1410	-100
12 月	64	96	461	352	154	146	132	1405	1332	73
1 月	62	90	436	308	121	125	124	1266	1221	45
2 月	76	88	442	297	131	128	124	1286	1205	81

3 月	76	104	486	344	144	129	121	1404	1381	23
合計	810	903	5162	4228	2027	1690	1334	16154	16385	-231

平均介護度 2.1

昨年対比 98.5%

ケアプランセンター (延べ人数)

	事業 対象 者	要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	2025 年 度合計	2024 年 度合計	差異
4 月	16	8	15	72	42	16	9	6	184	201	17
5 月	16	8	17	69	44	16	7	6	183	204	21
6 月	15	8	18	65	45	19	8	6	184	204	20
7 月	15	8	17	68	41	19	7	4	177	210	23
8 月	13	8	17	67	40	18	9	4	179	212	33
9 月	15	8	19	66	39	18	9	7	181	214	33
10 月	15	8	18	67	43	18	8	6	182	205	23
11 月	14	9	15	60	44	16	10	5	173	208	35
12 月	15	10	16	59	45	13	10	4	172	207	35
1 月	14	10	17	55	44	12	10	4	166	205	39
2 月	14	10	17	57	44	12	11	3	168	203	35
3 月	13	10	17	64	43	12	11	5	175	195	30
合計	175	105	203	769	514	189	109	60	2124	2477	344

昨年対比 85.7%

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数	
	2025 年度	2024 年度
4 月	299	352
5 月	273	344
6 月	279	289
7 月	362	347

8 月	282	350
9 月	297	335
10 月	332	362
11 月	296	350
12 月	317	309
1 月	236	275
2 月	250	290
3 月	204	294
合計	3427	3897

昨年対比 87.9% (2025 年度 自費サービス除く)

2. 機能訓練状況 (延べ人数)

短期入所生活介護

	2025 年度			
	短期入 所総利 用者数	集団訓 練	機能訓 練可能 人数	個別機 能訓練 加算
4 月	724	215	66	56
5 月	770	244	75	57
6 月	754	318	72	71
7 月	792	293	100	80
8 月	705	256	45	34
9 月	709	322	46	42
10 月	777	308	63	58
11 月	757	343	73	70
12 月	821	339	52	51
1 月	770	328	39	37
2 月	664	254	44	43
3 月	826	341	71	67
合計	9069	3597	746	666
前年度	9385	3828	651	646
昨年対比	96.6%	93.9%	114.5%	103%

通所生活介護

	2025 年度					
	個別訓練	小集団訓練	個別機能訓練加算 I イ	個別機能訓練加算 I ロ	運動機能向上加算	生活機能連携向上加算
4 月	734	491	1	1217	0	167
5 月	717	590	0	1236	0	167
6 月	671	567	0	1164	0	169
7 月	762	508	1	1199	0	174
8 月	604	524	0	1045	0	158
9 月	653	539	0	1135	0	165
10 月	732	511	0	1148	0	164
11 月	667	592	0	1113	0	168
12 月	672	614	0	1179	0	171
1 月	665	512	0	1067	0	166
2 月	600	572	0	1054	0	170
3 月	648	641	0	1152	0	174
合計	8125	6661	2	13709	0	2013
前年度	8174	6445	2	14086	0	1757
昨年対比	99.4%	103.3%	100%	97.3%	0%	114.5%

2024 年度介護保険の改正で運動機能向上加算廃止となる

Ⅲ 地域との交流

日時	行事	内容
R7. 4～R8. 3	山手台福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（5 回/年）
R7. 4～R8. 3	石河地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（3 回/年）
R7. 4～R8. 3	清溪地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（3 回/年）
R7. 4～R8. 3	見山地区福祉委員	福祉委員による地域福祉活動等の会議（2 回/年）

R7.4～R8.3	アルプラザ相談会	商業施設での福祉相談会（1回/偶数月）
R7.4～R8.3	カフェサロン（西河原）	ローレル集会所、サニーハウス集会所、西太田自治会館にて、喫茶サロン
R7.4～R8.3	ティーサロン（東太田）	高齢者対象のサロン（10回/年）
R7.4～R8.3	こだま会（西太田）	高齢者対象のサロン、健康講座等（10回/年）
R7.4～R8.3	サニーサロン（東太田）	高齢者対象のサロン（10回/年）
R7.4～R8.3	やまびこの会（東太田）	高齢者対象のサロン、歌体操等（10回/年）
R7.4～R8.3	ひだまりサロン（東太田）	全年齢層対象のサロン、ゲーム、子育て相談、多世代交流等（12回/年）
R7.4～R8.3	いきいきサロン（安威）	高齢者対象のサロン、健康相談等（1回/偶数月）
R7.4～R8.3	子育てサロン（耳原）	子民家よってこにて、子育てサロンを実施（1回/月）
R7.4～R8.3	こども食堂（耳原）	子民家よってこにて、こども食堂を実施（1回/月）長期休暇中は（1回/週）
R7.4～R8.3	子育てサロン（福井）	福井小にて、子育てサロンを実施（1回/2か月）
R7.12	北中子育てサロン	北中にて子育てサロンを実施
R7.4～R8.3	S N会議（山手台）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（4回/年）
R7.4～R8.3	S N会議（清溪）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（1回/月）
R7.4～R8.3	S N会議（忍頂寺）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（1回/月）
R7.4～R8.3	S N会議（北中）	要援護者及び中学校区課題検討（3回/年）
R7.4～R8.3	S N会議（福井）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修（5回/年）
R7.4～R8.3	S N会議（安威）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（奇数月）

R7. 4～R8. 3	S N会議(西河原)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修（偶数月）
R7. 4～R8. 3	S N会議(太田)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修（4回/年）
R7. 4～R8. 3	S N会議（北陵中）	要援護者及び中学校区課題検討(3回/年)
R7. 4～R8. 3	S N会議（太田中）	要援護者及び中学校区課題検討(3回/年)
R7. 4～R8. 3	いきいきサロン（耳原）	高齢者対象のサロン、健康相談等（1回/奇数月）
R7. 4～R8. 3	S N会議(耳原)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修（奇数月）
R7. 4～R8. 3	グループホーム運営推進会議	ふれあいぽっぽ運営推進会議（1回/2ヶ月）
R7. 4～R8. 3	グループホーム運営推進会議	コティ東彩都（5回/年）
R7. 4～R8. 3	地域密着型通所介護運営推進会議	いっぷく（書面開催）デイサービスみのはら（2回/年）
R7. 4～R8. 3	地域密着型通所介護運営推進会議	双子家、ショッピングサポートデイサービスあき（2回/年）ショッピングデイのみ開催。
R7. 4～R8. 3	地域密着型特別養護老人ホーム運営推進会議	ほくしん苑運営推進会議（3回/年）
R7. 4～R8. 3	小規模多機能型支援事業運営推進会議	ほほえみの郷車作（2回/年）
R7. 4～R8. 3	運営協議会	茨木市地域包括支援センター運営協議会（2回/年）
R7. 4～R8. 3	いきいき交流広場	藤だな、朝日丘交流亭、見山、銭原（不定期）
8月、2月	老人クラブ（長寿会）	健康相談と講話、脳トレなど（年2回）
R7. 4～R8. 3	老人クラブ（車作）	健康体操・講話（1回/月）
R7. 4～R8. 3	老人会（山手台）	健康体操・講話（不定期）
11月	耳原地区福祉委員会	グランドゴルフにて熱中症予防講話、相談
R7. 4～R8. 3	山手台地区福祉委員会	配食事業（コスモス弁当）支援
9月	見山地区福祉委員会	介護予防等の研修

山手台 9/9、11/5、 2/10	藍野大学 実習生受け入れ	藍野大学（看護師）の実習受け入れ
山手台 6/10～12 7/8～10	大手前大学 実習生受け入れ	大手前大学（看護師）の実習受入
7 月・8 月	夏祭り	西河原・山手台・安威・福井・耳原
R7.5 月～R8.3 月	RanRan 土曜カフェ	第 2 土曜日に開催。
6 月～9 月	西河原小学校区 熱中症予防キャンペ ン	西河原小学校区住民対象。小学生か らのメッセージ入りカレンダーを高 齢者に配布し、住民同士で熱中症予 防を呼びかけ合う取り組み。
9～10 月	敬老会	安威・福井・耳原・清溪・石河・見 山・太田・西河原地区は開催。（啓発 と健康相談）山手台地区は開催なし。
10 月	西河原地区 健康フェスティバル	全年齢層対象の健康づくりイベン ト。体組成測定、ニュースポーツ、 親子遊びコーナー等
山手台 5/28、11/14	ウォーキングイベント	活動の機会、体力づくり（ヤマト運 輸関西ゲートウェイ、ダムパーク、 いましろ大王の杜）
10 月 28 日	すこやかカラダづくり ～フレイル予防で スマイルチャージ～	アルプラザ茨木でフレイル予防や健 康増進のためのイベント開催
5.11 月	山手台健康フェスタ	山手台住民を対象に、健康体操や脳 トレ、包括等相談窓口についての啓 発
2 月 19 日	みんなで学ぼう！ マイナンバーカード	市民講座を開催。マイナンバーカー ドの仕組みと、支援者が気を付ける ことについて学ぶ。

R7. 4～R8. 3	地域ケア会議	清溪・忍頂寺・山手台と安威・福井・耳原の包括合同で開催（全 6 回）
1 月	太田中学校 防災セミナー	太田中学校 1 年生対象。太田小学校区防災会による講座を開催。
2 月	西河原地区 住民研修会（認知症について学ぼう）	西河原地区住民向けの勉強会。寸劇、グループワークを交えた勉強会。
R7. 4～R7. 3	おやこ de あいのカフェ	藍野大学にて子育て世帯向けの遊び場、くつろぎの場として開催（1 回/月）
R7. 4～R8. 3	民生児童委員協議会（福井）	福井公民館にて要援護者及び地域課題検討、情報交換等（1 回/月）
R7. 4～R8. 3	民生児童委員協議会（西河原・耳原）	西河原コミセンにて情報交換等（1 回/月）
R7. 4～R8. 3	民生児童委員協議会（太田）	太田公民館にて情報交換等（1 回/月）
6 月	認知症サポーター養成講座	福井高校にて認知症や CSW の活動、相談窓口について啓発
6 月 28 日	認知症サポーター養成講座	山手台老人会にて認知症や包括等相談窓口について啓発
11 月 22 日	認知症サポーター養成講座	石河地区福祉委員会にて認知症や包括等相談窓口について啓発

※SN 会議＝セーフティネット会議

IV 行 事・イベント・クラブ

全体行事

日時	行事名	内容
5/23	お茶会	お抹茶と和菓子を頂きました
9/17	敬老会	祝い年の利用者様の表彰、写真撮影とボランティアによる落語を実施しました。
10/11	秋祭り	出店（お好み焼き）（飲み物）、職員による千本引き・コイン落とし・的当てを楽しんで頂きました。ボランティアによる和太鼓の披露、チアダンスの披露をして頂きました
1/9	新年会	午前、ボランティアによる津軽三味線を披露。午後より職員によるおみくじ、福引きを行い

		ました。
--	--	------

全体イベント・クラブ活動等

日時	イベント・クラブ名	内容
第3水	陶芸教室	職員による陶芸教室を実施しました。
第2金 第4火	喫茶 ひだまり	職員による喫茶コーナーを実施しました。
第1火	書道教室	職員による書道教室を実施しました。
第4水	編み編みクラブ	ボランティアによる指導で毛糸使用し編み物教室を実施しました
第2土	カラオケクラブ	会議室を使用しカラオケ好きな方専用のクラブを実施しました
第3木	誕生日の買い物ツアー	誕生日月の利用者がアルプラザへ買い物に行きました。
第4月	折り紙クラブ	ボランティアによる折り紙教室を実施しました。
毎月1回	天兆園の日	各種のイベントと特別料理を提供しました。

その他、デイサービス・ショートステイの各フロアにおいて、レクリエーションに取り組んでいます。

V 研修・会議

【内部研修】

(全体) = 施設全体研修 (中堅) = 中堅職員研修 (指導) = 指導的職員研修

開催年月日	研修内容	講師	参加者の職種	参加人数
4/1	法令遵守について	永森相談員	全体	56
5/13	認知症ケア	ショート糸井 CW		56
6/3	個人情報保護法	枝澤 CM		56
7/1	緊急時対応・疥癬	加来看護師 木村看護師		56

8/5	事例検証	山神施設長		56
9/2	看取りについて	ショート白井 CW		56
10/7	パワーハラスメントの正しい理解	山神施設長	全体	56
11/4	身体拘束について 介護事故対策予防	宇津副主任副 デイ 藤澤 CW	全体	56
11/11	アンガーマネジメント研修	ゆるふらっと 牧本恵理子氏	全体	56
12/2	感染症について	北田 NS	全体	56
1/6	身体拘束について	ショート 井口 CW		56
2/3	非常災害研修 BCP研修	シュート 長谷川 CW		56
3/2	高齢者虐待について	中澤次長		56

【外部研修】

開催年月日	研修内容	主催	参加職種
5/19	プランニングに役立つ他職種連携の技術	茨木市	CM
5/22～7/30	認知症介護実践者研修	公益社団法人大阪介護老人 保健施設協会	介護
6/10	統合失調症・発達障害・パーソナリティ障害と診断のある利用者の支援	茨木市	CM
6/9～8/12	認知症介護実践研修（実践リーダー研修）	社会福祉法人 聖徳会	介護
6/24	AI で自動化するケアプラン原案作成実演会	茨木市	CM
7/9	ケアマネジャー向け研修（配信）	茨木市	CM
7/14	居宅療養管理指導に関する研修	茨木市	CM
7/25	ケアマネジメントで行う家族支援（配信）	茨木市	CM
8/19	おさえたい口腔ケアの基本	大阪府介護情報 研修センター	介護
8/22	人生最後に向けた準備から納得できるケアマネジメントの提供	大阪府介護支援専門員協会	CM
8/26	認知症の人の理解を深める	大阪府介護情報	介護

		研修センター	
9/3～11/13	認知症介護実践研修	社会福祉法人 聖徳会	介護
9/17	ケアマネスキルアップ研修	茨木市	CM
9/19	介護現場におけるリスクマネジメント	大阪府介護情報研修センター	介護
9/19	口腔 誤嚥性肺炎を防ぐために	茨木市	CM
10/21	認知症と精神症状	茨木市	CM
10/24	地域共生社会と 生活困窮者支援	茨木市	CM
11/11	運動 なんとなく心配を根拠ある支援に変えるアセスメントのポイント	茨木市	CM
11/18	ケアマネジャーのための BCP（配信）	株式会社トーカイ	CM
2/7	事例検討「閉じこもり家族への働きかけについて」	茨木市	CM
3/9	障害福祉サービスの基礎	茨木市	CM
3/27	在宅医療連絡検討会	藍野病院	CM

会議名	開催日	参加職種
所属長会議	第 3 火	施設長・管理者・主任・副主任
教育委員会	第 3 火	生活相談員・介護職員・看護職員・介護支援専門員
リスクマネジメント委員会	第 3 火	介護職員・生活相談員・介護支援専門員・機能訓練指導員・ヘルパー・看護師
サービス向上委員会	第 2 火	生活相談員・介護職員・介護支援専門員 サービス提供責任者・機能訓練指導員
行事・ボランティア委員会	第 2 火	介護職員・介護支援専門員・事務職員 看護職員・機能訓練指導員
園芸委員会	第 3 火	介護職員・介護支援専門員・包括職員
広報委員会	適宜	介護職員・介護支援専門員・包括職員

感染対策委員会	第 2 火	施設長・看護職員・介護職員・介護支援専門員・包括職員
衛生委員会	第 4 金	施設長・産業医・衛生管理者・看護職員事務職員
介護調整会議	不定期	介護役職職員・フロアリーダー
デイサービス フロアカンファレンス	第 3 火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
デイサービス ケアカンファレンス	第 3 火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員・介護支援専門員
ショートステイ フロアカンファレンス ケアカンファレンス	第 3 月	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
ヘルパー会議	毎月 15 日	管理者・サービス提供責任者・ヘルパー
2 包括合同会議	月 1 回	包括職員
ケアプランセンター 会議	毎週火曜日	介護支援専門員

VI 苦情処理及び第三者委員

当施設・事業所では、サービスの向上、利用者の理解を深めるため、利用者からの相談又は苦情に対応する常設の窓口を施設内に置いて生活相談員又は管理者を苦情受付担当者とし、施設長を苦情解決責任者としています。

事業所毎にも苦情処理担当者を配置し、苦情が出た場合は必ず対応記録をとり、管理者と連絡をとりながらすみやかに対応していく体制になっています。また意見箱を 1 階下駄箱横・2 階エレベーター横に設け、誰でも意見が出せるよう配慮しています。

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
ショートステイ天兆園	川井 茂	山神 真史
デイサービスセンター天兆園	永森 達志	
ヘルパーステーション天兆園	長谷中 小百合	
ケアプランセンターアイ	山根 千栄	
在宅介護支援センター天兆園	福隅 友美	
地域包括支援センター天兆園	中澤 亮子	

苦情に関しては、第三者委員として次のように定め苦情の内容に関しては定期的（4 月、10 月）に報告をしています。今期は上期 2 件、下期 4 件の報告を行い、計 6 件中 3 件が利用中の言葉掛けや対応方法が適切ではなかったためのものであった。フロアカンファレンスで見直しと周知徹底を図っています。

第三者委員	佐々木 映 吾（緑町荘園前自治会長）
-------	--------------------

VII リスクマネジメント委員会

1、事故防止

2025年度の事故報告件数は、下記の通りです。そのうち重大事故の件数（骨折、縫合が必要な外傷等で保険者に報告した事故）は、3件でした。

ショートステイ	54件（2件）
デイサービス	24件（1件）
ヘルパーステーション	0件（0件）
ケアプランセンター	0件（0件）
地域包括支援センター	0件（0件）
合計 78件（3件）	

今後、事故が減少するように原因を検証・検討し対策を実施します。また、リスク委員と全職員に周知徹底をすると共に勉強会等も開催していきます。

2、身体拘束廃止

家族の意向で送迎時ベルトを着用するケース	1件
リフト入浴時、タオルで足を固定するケース	3件
てんとう虫利用時、ベッド3点柵	2台活用時

現在、施設では身体拘束は行っていないが、身体拘束につながる可能性のある場合の対応・記録の重要性について説明を重ね、「身体拘束等の適正化のための指針」及び「身体拘束マニュアル」の再確認と職種による認識の相違をなくすように周知徹底しています。

緊急でやむを得ない場合は、各部署や委員会・施設全体で検討し、やむを得ない場合のみ利用者に負担の少ない方法や時間帯で実施するように努力していきます。その後、解除に向けて検討を繰り返し、利用者の精神的苦痛も速やかに解除するようにしています。

今後、どんな状況でも身体拘束を行わないで介護ができるよう全員で取り組みを実施していきます。高齢者虐待についても全職員が理解し利用者が快適に過ごしていただける様、努めていきます。

3、虐待防止委員会

虐待ケース	1件
内訳	身体的 1件
	ネグレクト 0件
	経済・精神的 0件

虐待疑いケース 2件

虐待リスクのある利用者に関して、記録・介護支援専門員への報告、経過観察をおこなっている状況です。

虐待の可能性を含め、虐待防止に向けて意識づけと報告が適切に行っていけるようにリスク委員だけでなく、全職員の理解と対応を実施してけるように努めます。

愛光認定こども園

2025 年 度 事 業 報 告

1. はじめに

2025 年度は、組織としての安定とさらなる質の向上を目指した一年となりました。本グループの理念である「愛」「和」を重んじ、人権尊重の考えのもと、地域に根ざした園づくりを継続するとともに、より一層「選ばれる園」となるための運営を意識して取り組んでまいりました。

人口減少が進む社会情勢の中においても、本園では安定した園児数を確保し、年間を通して待機児童がいる状況を維持することができました。これはこれまで継続してきた教育・保育内容の充実と、SNS 等を活用した地域に向けた情報発信の成果であると考えております。

人材面においては、全国的に保育士不足が大きな課題となる中、2024 年度に続き 2025 年度も新たに 2 名の新卒者を採用することができました。新たな人材の入職は、園に活力をもたらすとともに、「人材が育つ機会」であるだけでなく、「人材を育てる機会」として既存職員の成長にもつながり、園全体としての組織の成熟を感じる一年となりました。こうした取り組みの背景には、実習提携校からの紹介や、継続的に行ってきた SNS を活用した情報発信の効果が大きく寄与しているものと考えております。

また、和光認定こども園との公開保育や合同職員研修を実施することができ、園外との学び合いの機会を持つことで、保育の質の向上と職員の専門性の深化につなげることができました。

さらに、採用活動においても継続的な成果が見られ、2026 年度においては 4 名の新卒者を採用することができるなど、今後に向けた人材確保の基盤が着実に整いつつあります。

一方で、土曜日保育や延長保育の利用増加、配慮を要する園児への対応など、現場における負担や課題も顕在化しており、持続可能な運営体制の構築が求められています。

今後も、これまでの取り組みを礎としながら、保育の質の向上と職員が安心して働ける環境づくりの両立を図り、「選ばれる園」として地域に貢献できるよう努めてまいります。

2. 園児数について

* 定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員	9 名	17 名	19 名	20 名	22 名	23 名	110 名
平均値	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名

園児数の実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
4 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
5 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
6 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
7 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
8 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
9 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
10 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
11 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
12 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
1 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
2 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名
3 月	10 名	19 名	20 名	24 名	23 名	24 名	120 名

3. 職員体制

園長	1 名
主幹保育教諭	1 名
指導保育教諭	2 名
保育教諭（非常勤含む）	23 名
事務	1 名
看護師	2 名
管理栄養士	1 名
保育補助	11 名
嘱託医（第一東和会病院小児科）	1 名
嘱託歯科医（第一東和会病院歯科）	1 名
薬剤師（東和会薬剤師）	1 名

* クラス担任数

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
------	------	------	------	------	------

(りす)	(うさぎ)	(やぎ)	(きりん)	(くま)	(ぞう)
3名(2人)	2名(3人)	2名(2人)	2名(2人)	2名(2人)	1名(1人)

上記の職員は常勤換算です。

() 内非常勤職員

- ・2025年度は2年目までの職員をベテラン職員とできる限りペアにし「育て・育てられる機会」の場を作り教育・保育を進めることができました。
- ・残業時間の減、休憩時間の確保、持ち帰りの仕事の減をしっかりと意識した園づくりを行い引き続き求人活動を進めていきたいと考えております。

4. 教育・保育目標

- ・グループの理念である「愛」と「和」を重んじ、人権尊重の考えのもと、自分を大切にし、他者を思いやることのできる心を育てます。
- ・価値観の多様化や社会環境の急速な変化、さらにはAI技術の発展など先行きが不透明な時代において、本園の目標である「生きぬく力」の確立には主体性ととともに他者と関わる力、すなわちコミュニケーション力の育成が不可欠であると考えます。

そのため、乳幼児期から対話を基盤とした関わりを重視し、対話的コミュニケーション力の育成が期待できるフィンランドメソッドを教育・保育に取り入れ、実践を進めております。2024年度より開始した職員向け研修を継続し2025年度においても園内研修を重ねながら、職員一人ひとりの理解と実践力の向上を図ってまいります。

5. 具体的取組み

0歳児クラスから多くの大人と関わる機会を大切にし、絵本や日々の遊びを通してコミュニケーション力の基礎を培っております。絵本を人との関わりの一歩と位置づけ、0歳児から「絵本の貸し出し」を行い、その際にも大人が選ぶのではなく、子ども自身が興味・関心に基づいて選ぶ取り組みを継続しております。

幼児期においては、「言われたからする」のではなく、自分たちで何ができるのかを考え、主体的に行事や活動内容を決定していくことを大切にしております。運動会や発表会においても、保育者主導ではなく「何をやってみたいか」という子どもたちの思いを出発点とし、対話を重ねながら内容を構築しております。

こうした経験を通して、自分の意見と他者の意見の違いに気づき、「なぜそう思うのか」「なぜ相手はそう考えるのか」といった思考を深める機会を大切にしており、子どもたちが自ら対話しながら主体的に活動を進める力の育成につな

がっていると考えております。

また、「食育」活動においても、絵本と連動した給食メニューの提供や、実際に魚を捌く様子を見せるなど、子どもたちの興味関心を引き出す体験型の取り組みを継続しております。

さらに本年度は、世代間のコミュニケーションの機会として、週に数回、併設するグループ内の老人ホームを訪問し、昼食時にメニュー発表を行うなどの交流活動を実施いたしました。日常的に高齢者の方々と関わることで、子どもたちにとって多様な人との関係性を築く貴重な経験となっております。

加えて、万博開催の年であることを背景に、毎月「世界の料理」をテーマとした給食を実施し、様々な国の食文化に触れる機会を設けました。食を通して異文化への関心を育むとともに、多様性を自然に受け入れる感性の醸成につなげております。

・課外教室

	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
リトミック音楽	○	○	○	○
体操・体幹教室	体幹教室	体操教室	体操教室	体操教室
英語で遊ぼう	○	○	○	○
スイミング			○	○

課外教室については、教育のさらなる向上を目的とし、専門講師による直接的な指導を継続しております。2025 年度においても講師との連携を密に図りながら、各クラスの実態に応じたカリキュラムの検討を行い、子どもたちの発達段階や課題に応じた指導内容の充実に努めてまいりました。講師と保育者が定期的に意見交換を行うことで、日常の保育と課外活動の連続性を意識した取り組みを進めております。

一方で、スイミング教室については安全確保を最優先とし、実施年齢を引き続き 4 歳児からとするとともに、園長、保育者、スクールコーチが連携し、プールの水深や指導内容について適宜見直しを行いながら、安全面に最大限配慮した運営を行っております。

・障がい児保育については、2025 年度においても個別の配慮を必要とする園児が在籍しており、年々そのニーズは高まっております。本園では、「愛」「和」「人権尊重」の理念のもと、一人ひとりの発達や特性に応じたインクルーシブ保育の実践に努めております。

特に医療的ケアを必要とする胃ろう児の教育・保育においては、本児の成長に

伴い、園・家庭・療育施設との連携をこれまで以上に密にし、日々の情報共有や支援方法の見直しを行いながら、安全かつ安心して生活できる環境づくりを進めていき、2025 年度を持ちまして卒園となりました。

また、自閉症児に関しては、高槻市の公民の療育支援施設との連携を図り、見学やケース会議を重ねることで、多角的な視点から支援方法を検討し、包括的な支援体制の構築に取り組んでおります。

こうした取り組みを通して、一人ひとりに適した関わりを模索しながら、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境の中で成長できるよう教育・保育を進めております。

・土曜日保育については、引き続き利用ニーズが高く、毎週 20 名を超える受け入れが続いております。加えて、発達に配慮を要する園児の利用も複数名見られることから、安全かつ丁寧な保育の実施に向け、必要とされる職員配置数も増加傾向にあります。

そのため、土曜日保育における職員体制を確保する中で、公休や有給休暇の取得を保育・教育活動が充実している平日に設定せざるを得ない状況が続いており、保育体制の維持と職員の働き方の両立が課題となっております。

・延長保育については、2025 年度は 18 時以降の利用が比較的少ない一年となりました。その結果、職員の残業時間についても見直しが進み、前年と比較して一人当たりの月平均残業時間を 10 時間未満に抑えることができました。

今後も利用状況を踏まえた柔軟な職員配置を行いながら、子どもたちにとって安心できる保育環境の確保と、職員の働きやすい職場環境の両立に努めてまいります。

・あいっこ広場（子育てサロン）

2025 年度においても地域の未就園児家庭の交流の場として、SNS 等を活用することで、管理栄養士による離乳食の試食会や相談、看護師による身体計測等を実施し、毎月たくさんの申し込みをいただきました。定員の 15 名は毎月満員となり、そこから入園を希望され、2026 年度の入園につながったご家庭も多々あります。超少子の中、こういった地域支援を広げていき園児数確保へつなげる取り組みは引き続き行っていきます。

・毎月「あいっこだより」、「ほけんだより」及び「給食だより」の発行は時代の流れに合わせ従来の紙による配布枚数を減らし電子化による案内主とし、保護者が携帯端末でいつでも確認できるようにしてまいりました。これからも園からの発信は利便性を考慮したものに変えていき多くの保護者の目に留まるようなものにしていきたいと考え

ております。

・社会福祉法人照治福祉会様との訪問型ボランティア事業であるホームスタートにおいて恭生会からオーガナイザーが1名誕生しました。
それに伴い、訪問に行かれるビジターのバックアップがこれまで以上に手厚く可能となりました。

6. 年間行事

月	行事	月	行事
4月	入園・進級式・お花見	10月	運動会・遠足・芋ほり
5月	遠足・保育体験 (0・1歳児) 玉ねぎ堀り プラネタリウム鑑賞	11月	作品展 クラス懇談会 年長児ディキャンプ 保育体験(0・1歳児)
6月	尿検査・歯科検診 クラス懇談会	12月	クリスマス会・餅つき 地域の老人会クリスマス会
7月	プール開き・七夕会 夏祭り	1月	獅子舞い・年始の集まり
8月	保育体験(0・1歳児)	2月	節分・生活発表会 0.1.2歳児個人懇談会
9月	交通安全教室	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式・3.4歳児個人懇談

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。

7. 避難訓練について

・毎月1回、年間

計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行っております。

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災(消火器の使い方)	消火器の場所の確認

7 月	災害発生時の 避難訓練	災害時の役割の確認 避難経路の確認
8 月	火災（小学校に 避難）備蓄品の 確認	小学校に非難するほどの大規模災害を想 定した訓練 備蓄品の確認
9 月	前期訓練のまと め	乳児幼児の保育教諭に分かれてこれまでの 避難訓練の振り返りを行う 園児達への非常食の提供
10 月	AED の使い方 看護師指導	心肺停止の非常事態が発生した場合の AED の使い方を学ぶ
11 月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12 月	地震	地震の避難の仕方を知る 備蓄品の入れ替え
1 月	阪神大震災の話 を聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の 確認 園内研修において発電機等の使い方を学 ぶ
2 月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等 分け合い暖をとる訓練
3 月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振 り返り、次年度に繋ぐ

8. まとめ

高槻市における就学前児童数は約 1 万 3 千人となっており、2024 年と比較すると人口減少が進行している状況にあります。各自治体においても少子化対策として乳児期の保育料無償化など様々な子育て支援施策が展開されており、今後は児童確保に向けた環境は一層変化していくものと考えられます。

また、本園のように園児数が充足している状況においても、園運営を支える職員の確保は大きな課題となっております。全国的な労働人口の減少に伴い、保育・教育分野への人材流入が伸び悩んでいる現状を踏まえると、今後の人材確保はより一層厳しさを増していくことが予想されます。

本園といたしましては、これまで以上に人材確保の観点を重視し、中途採用者に向けては SNS 等を活用し、本グループの規模や保育・教育の取り組み、働く魅力の発信を強化してまいります。また、新卒者に対しては大学訪問や実習の

積極的な受け入れを通して関係性を構築し、有望な人材に対しては早期から継続的なアプローチを行うことで、採用につなげてまいります。

人材の確保とともに、園内における計画的かつ継続的な人材育成を推進することが、園の魅力向上および安定した運営につながるものと考えております。超少子の時代においても、質の高い保育・教育の提供と組織力の強化を両立することで、今後も一定数の園児を確保し続け、「選ばれる園」であり続けることを目指してまいります。

和光認定こども園

2025 年 度 事 業 報 告

1 はじめに

グループの「愛」と「和」を重んじ人権尊重の理念のもと子どもと保育教諭主体の教育と同時に保護者の就労保証でもあります保育の両面を目指し、取り組んで参りました。少子化と言われますが、本園への入園希望は多く、年々事前見学者も増加し、2024年度は65家庭、2025年度では81家庭でした。私たちは、質の高い教職員の集団であると言う高い意識をもち、教育に向き合いました。また、子ども達の健康管理は第一と考え、働く保護者の安心に繋がり仕事に集中できるよう、最大の努力を惜しみませんでした。こども園として教育・保育・就労を保証すると言う大前提のもと、質の高い保育内容の維持に努め、地域の子育てを支える拠点としても、重要な役割を果たしております。

2、園児数について

*定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	9名	18名	22名	23名	23名	25名	120名
平均値	10名	18名	22名	28名	28名	28名	134名

園児数の実績

1号認定14名含

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	9名	18名	22名	28名	28名	28名	133名
5月	9名	18名	22名	28名	28名	28名	133名
6月	9名	18名	22名	28名	28名	28名	133名
7月	9名	18名	22名	28名	28名	28名	133名
8月	9名	18名	22名	28名	28名	28名	133名
9月	10名	18名	22名	28名	28名	28名	134名
10月	10名	18名	22名	28名	28名	28名	134名
11月	11名	18名	22名	28名	28名	28名	134名
12月	12名	18名	22名	28名	28名	28名	135名
1月	12名	18名	22名	28名	28名	28名	135名
2月	12名	18名	22名	28名	28名	28名	135名
3月	12名	18名	22名	28名	28名	28名	135名

3、職員体制

園長	1名
----	----

主幹保育教諭	2 名
指導保育教諭	2 名
保育教諭（非常勤含む）	36 名
事務	1 名
看護師（非常勤）	5 名
管理栄養士	1 名
保育補助	6 名
嘱託医（東和会病院小児科医）	1 名
嘱託歯科医（田村歯科）	1 名
薬剤師（東和会薬剤師）	1 名

保育教諭 36 名の内常勤職員率は 31%と少ない為、常勤採用に力を入れたが採用には至らず。

＊クラス担任数

0 歳児 (すみれ)	1 歳児 (たんぽぽ)	2 歳児 (ひなぎく)	3 歳児 (なのはな)	4 歳児 (なでしこ)	5 歳児 (ささゆり)
3 名	3 名	4 名	2 名	2 名	2 名

上記の職員数は常勤換算です。

- ・クラス担任が有給休暇や研修出張の場合フリー保育教諭が、クラスを補う為、常に全クラスを把握している事が求められます。
- ・保育教諭はその仕事だけではなく、人としての在り方とその姿勢が問われ、保育教諭は専門職としての、日々の保育と教育の課題に気付き、必要な研修会に積極的に参加します。上手く利用することで、キャリアアップ研修等も経験年数を重ねた職員が順次進めて行き、今年度は常勤職員 1 項目以上は受講できました。また、加配を必要とする園児やその保護者が増加し教育内容や保護者対応にも多様化が求められ、利用者に寄り添う関わりが必要でした。

4、教育・保育目標

- ・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に人を大切にできる心を育てます。
- ・フィンランドメソッド教育を基本に「遊びと学び」が教育・保育の柱です。子どもは遊びを通して成長し「学ぶ意欲を育てる」子どもの主体性を大切にしながら、保育教諭の働きかけは常に子どもに向けられています。
- ・本園の教育のコンセプト上牧の自然を活用した、広い園庭での戸外あそびからの好奇心を育て絵本の読み聞かせによる 対話的コミュニケーションを重視し自分の思いや考えを

言語化する。幼児期の基礎を育てます。

4-1 具体的取組み

・0歳児から2歳児は「養護」を基本とした、「愛着保育」を基本とし心の安定を図り緩やかな成長曲線を描けるものと今後の成長に期待されるところであります。保護者からの信頼も得る事ができました。同時に園への理解と協力も得られました。

また、3歳児から5歳児は子ども園としての、毎日4時間以上の教育の時間を確保し、遊びと学びを重視した保育計画を立て、今年度から縦割り保育やワクワクタイム・サークルタイムに力を入れた。子ども同士の刺激を受け合い、課題に対話的解決策を見出し、年齢と精神的発達に合わせた社会性をも身に付ける事ができました。本園が目指している対話的コミュニケーションの基礎が身につき5歳児は小学校へと進学しました。

・課外教室

	3歳児	4歳児	5歳児
リトミック音楽	○	○	○
英語	○	○	○
サッカー教室	○	○	○
菜園	○	○	○
すうじ		○	○

・課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。

また、保育教諭の学びともなり、保育の質を上げる事にも繋がっています。

実費となる為参加は希望制ですが、全員希望し保護者の熱心さが伝わります。

*子育て支援事業について

・障がい児保育・医療的ケア一児

要配慮として高槻市より保育教諭の加配を認められているのは、3歳児2名、

4歳児3名2歳児1名

・医療的ケア一児のインクルーシブ保育

4歳児上気道狭窄 痰吸入・経鼻栄養から胃ろう・酸素吸入を必要とする園児も受け入れから4年目、現在に至っております。障がいがある子もない子も共に育つインクルーシブ保育を目指し積極的な受け入れを考えています。インクルーシブ保育から4歳児の重症疾患をもつHYさんは、同年齢児の刺激を受け、人の話しを理解し自分の気持ちを簡単な手話で伝え自己表現が出来るまでに大きな成長に繋がりました。

・延長保育

延長保育の利用者は、保護者の就労が多様化してきた為、延長利用者が減少にあった。在

宅と言う働き方の変化にも、子どもの保育時間の変動はありました。今後保護者の働き方にも変化が予想されるところではありますが、延長保育は子どもの立場では、減少されることは望ましいと考えます。

・園庭開放

一般家庭の子どもと園児が共に、安心して遊べる場として、開放しています。

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4・5 歳児	合計
--	------	------	------	------	--------	----

月 2 回の開催ですが、事前申し込み予約制ということもあり、利用者が減少傾向にあり、地域の親子にとっての活動の場として開放し、こども園をより理解してもらえるように、

内容を事前に公開し参加しやすい雰囲気作りを心掛けて開催します

* 保護者支援・地域交流の取り組み

・毎月園だよりクラスだよりとほけんだより、給食だより・ほけんだより等

ICT を活用した情報発信でペーパーレスの利点と保護者側の便利さから情報が伝わりやすくなった。

* 守秘義務及び個人情報の取り扱いについて

・児童とその保護者に係る情報の守秘については、法人規定により全職員が誓約書を提出した上での職員指導を徹底しております。

5. 一時預かり事業

4月						0名
5月	2名					2名
6月	6名					6名
7月	5名		1名			6名
8月	名					2名
9月	4名	1名	3名			8名
10月	5名		1名			6名
11月	4名		1名			5名
12月	5名	1名				6名
1月	4名	1名				5名
2月	2名	2名				4名
3月	2名					5名

○一時預かり減少により、一時預かり担当者を0歳児の弾力受入の保育担当に配置転換することで、0歳児を3名定員増での受け入れが可能とな

った。

6、年間行事

月	行事	月	行事
4月	入園・進級式・ こいのぼりフェスタ	10月	運動会・遠足・芋ほり やきいも大会
5月	遠足・個人懇談	11月	没入型運動遊び
6月	尿検査・歯科検診 個人懇談	12月	クリスマス会 餅つき・
7月	プール開き・七夕会 5歳キャンプ（場所変更） 地域の夏祭り	1月	凧揚げ大会
8月	夏祭り	2月	節分・生活発表会・
9月	プラネタリウム見学	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式・クラス懇談会

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。

・園行事は感染防止を図り、密になる事を避け、行事自体のやり方が、コロナを経験したこ

とにより見直しました。結果子ども主体で成果を上げる事ができた事は職員の努力の上に成り立ちました。

・食育の取り組み

自園の畑で夏野菜（トマト・きゅうり・ゴーヤ）の成長観察をしました。

水やりや肥料、太陽の自然の恵みを受けて育つ姿を見る事で、食べ物大切さが身についていきました。

毎月1回の食育会議で、給食業者とのメニューや内容また、アレルギーについて話し合い誤食を防ぎ、食に対しての興味を高め「望ましい給食」をテーマに食の大切さを子ども達にも伝えてきました。今年は食育の取り組みとして一年を通して“日本全国の郷土料理を知ろう”をねらいとして地域やそこで生活する人にも目を向け、感心を深めました。

7、避難訓練について

- ・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行う

こども園では、訓練の中心は職員であり災害が起きた場合、子どもたちの安全をどうしたら守れるのかが問われます。下記の内容での訓練を行い職員一人ひとりが災害に対しての知識と理解を深めました。

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災（消火器の使い方）	消火器の場所の確認
7月	プールについて 水難事故	水遊びやプールの危険性について知る 安全なプールの楽しみ方を学ぶ
8月	火災	指示を聞き落ち着いて避難し、保育士は避難経路の確認と役割の確認
9月	地震（防災頭巾を使用）	地震の避難の仕方を知り、落ち着いて行動する
10月	AEDの使い方	心肺停止の非常事態が発生した場合のAEDの使い方を学ぶ
11月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12月	地震	地震の避難の仕方を知る
1月	阪神大震災の話を聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認
2月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等を分

		け合い暖をとる
3 月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

- ・園児対象に警察官による、安全教室も今年是对面で始まりました。
- ・消防署員による AED 講習や、水難事故や怪我の応急処置など全体研修として職員間で共有し、知識として学びました。災害に対しての危機管理意識を全職員がもち、子どもたちにも自分の命の大切さを常に伝え命の教育は力を入れています。

8、まとめ

- 本年度は園児数 135 名（1 号認定含む）で園運営を行い、子ども一人ひとりの主体性を大切にしたい、保育の充実に努めた。縦割り保育や今年度新たにワクワクタイム（自分で遊びを選択する）を導入し異年齢児の関わりを通して思いやりや協調性の育ちが見られるなど、成果をあげられた。次年度には今年度の経験を生かし繋いでいきたい。脳の発達黄金期であるこの時期に、本園が教育の土台としている“考える力”は AI の時代どれだけテクノロジーが発達しても、子どもたちが社会で生き抜いていく上で欠かせない力です。また、地域に開かれた園づくりを目指し園庭開放や子育て支援事業を実施したが、参加者が少ない状況であった。今後周知方法や実施内容に工夫を図り、地域のニーズに応じた取り組みの充実に課題とみえてきた。引き続き、子どもの育ちを支える保育の質の向上に重ね連続性のある学びに視点をおいた教育を目指していきます。